

# キャリア教育講演会

「総合的な学習の時間」における進路学習の一環として、1・2年生を対象に開催された。今年も、同窓会の当番学年を中心に講師を推薦していただいた。



総合的な学習の時間を利用した、「キャリア教育講演会」も今春で3回目の開催となった。講師が主に卒業生の先輩ということもあり、毎年好評であるが、今年も満足度が高かったようだ。以下は生徒の感想文からの抜粋である。「脳についての話は役に立ちそうで、明日からの勉強で実際にやってみようと思った。」「研究者になりたいと漠然と思っていたが、実際に話を聞いて、将来像が具体的に描けるようになった。」「自分の体験をリアルに語ってくれて、大学を卒業した後、どのような女性として人生を送ったらよいか考えることができました。」「講師の先輩のように私も後輩に語りかけたい。」「私にも立派な仕事をしたい。」

## OB講師の紹介と内容 (卒年順)

高山 豊	昭和42年卒	国際医療福祉大学三田病院精神科教授	「脳の医学、記憶の心理学、心の地理学」
人見 兼義	昭和52年卒	㈱ピー・エム・シー代表取締役	「楽しく目標を考える」
日野 克彦	昭和60年卒	㈱林原生物化学研究所研究センター 糖質研究部門 主任研究員	「林原での研究・開発。夢のトレハロースを事例として」
永山 久徳	昭和62年卒	ゆのごう美春閣・鷺羽山下電ホテル代表取締役	「企業家として語る“RYOKAN”の価値と魅力」
名越有里可	昭和62年卒	NECシステムテクノロジー主任	「女性が“働く”ということ、“自分らしく生きる”ということ」
杉本 克敬	平成9年卒	EXCAFE (エクスカフェ) オーナー兼代表	「カフェが果たす文化施設としての役割」
松岡 優子	平成9年卒	ECCジュニア・プランチスクール 妹尾教室	「仕事も家庭も子育ても。3足のわらじの履きこなし方」

## 第40回 国際物理

### オリンピック

(H21/7/11~19 メキシコ)



三年 難波 博之君

岡山県初の日本代表となった難波博之君が銀メダルに輝いた。日本代表は全国の高校生から5人だけという狭き門。数学が大好きだった難波君は高校2年生で初めて物理に出会い、夏には国内の物理コンテストで優秀な成績を収め日本代表候補に選ばれ、添削問題や大学での実験、合宿などを経て代表となった。物理漬けの毎日だったが、大学の立派な実験器具を使わせてもらうことができた時は感激したそうだ。

本番では、理論と実験問題に、各5時間かけて挑戦。理論問題は量が多く、大学生でも難問が多い。実験問題で少しつまづいたのが残念だったという。

韓国では40年分の過去問を解いたとか、中国では3年計画で準備し、山にもこもって修行したと聞き、東南アジア各国の物理に驚いた。小柴博士ほか世界のノーベル賞受賞者に会うことができたのも感激だったと微笑んだ。

問題を解くことが面白く、解けたときには何事にも変えがたい喜びがあり、「解けなくても絶対あきらめな。前に前に進め。」という言葉が心に残っているそうだ。今、学校の授業で興味あるのは化学。数学―物理―化学とつながっているという。ふと、亀の甲のような構造式が頭に浮かんで納得した。

## 将棋で活躍

「将棋の甲子園」と呼ばれる「第45回全国高校将棋選手権」の女子団体で、茅原有希さん、難波有希奈さん、山本茉央さん(全員一年生)が準優勝した。予選は全勝。決勝では予選で破った一昨年優勝校に惜敗。負けた時は悔し涙がにじんできたという。相手は全員3年生だったから気迫負けしたの?と聞けば、「いえ、全く。優勝する自信はありません」とさっぱり。

平日は学校の勉強が忙しくて宿題が終わったあとに詰めて将棋をする程度しか時間がながい、それでも休日にはNHK

の将棋番組を見たり、ネットで対戦したりと楽しみながら将棋の腕を磨いているそうだ。得意戦法は「居飛車棒銀で、今後の課題は「序盤の研究」と堅実。お互いを「粘り強く受けに強い」と評価しあう。なごく速い」と評価しあう。なるほど、受けと寄せが強い者同士で練習すれば読みが深くなり負ける気がしないのもうなずける。今は昇段することより対戦に勝つことが目標で、「来年は絶対優勝します!」と笑顔で宣言してくれていた。



## 囲碁で活躍



三年 多田 遼太郎君

「第55回アマチュア本因坊決定戦岡山県大会」で2回目の優勝、「第55期中国本因坊戦」で最年少優勝、「第4回朝日アマチュア囲碁名人戦岡山県大会」では高校生で初めて優勝と大活躍の多田君。「アマチュア全国大会で優勝するのが夢」と瞳を輝かせる。碁を始めるきっかけは、小学3・4年の時に大ヒットした囲碁

の世界を描いた漫画。5年生からは教室に通ってプロに習い、いつしか碁のない生活は考えられなくなったと言います。今では6段の腕前。何通りも先を読んで思ったとおりいくくのも、相手に予想外の手を打たれるのも面白い。「目の前に人がいて、打った手に表現がある」のが碁の大きな魅力で「碁を知らない人にも碁の世界をもっと身近に感じて欲しいし、朝日高の囲碁部をもっと活性化させたい。絶対面白いのでぜひ一度テレビの囲碁番組と再放送されている漫画をみてください。」と身を乗り出した。「これから?ももちろん帰って碁をします。」